

令和7年度 大分大学総合型選抜入試問題

小論文

(福祉健康科学部)

福祉健康科学科 心理学コース

解答時間	90分
配点	200点

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和7年度(2025年度)
大分大学福祉健康科学部 総合型選抜入試問題
福祉健康科学科 心理学コース

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは誰でも、意識に映じた自分の心の動きを直観的に知ることができる(心理学では、こうした直観を「内観」と呼ぶ)。そのため、人間の心理について考えるとき、私たちは、とにかく、この直観に頼りがちになる。

たとえば、「テレビで暴力番組を見ると子どもが暴力をふるうようになるから、暴力番組は禁止すべきだ」という意見について考えてみよう。この意見は正しいのだろうか？

それを判断するとき、私たちは、たいがい直観に頼る。たとえば、自分がテレビで暴力シーンを見ていたときのことを思い出してみる。敵役を叩きのめす主人公が「格好いい」と感じた記憶がよみがえってきたとしたら、「たしかに、暴力番組を見ると暴力をふるうようになるだろう」という意見に傾くかもしれない。

しかし、ほかの人は、同じように直観的な判断をした結果、「暴力番組を見ただけでは、自分で暴力をふるうようになったりしない」という意見をもつようになるかもしれない。では、どちらの直観が正しいのだろうか？

直観的な議論だけなら、どちらの立場からでも、もっともらしい議論はいくらでもできる。たとえば、「子どもは大人の真似をしたがるものだから、テレビで大人が暴力をふるっているシーンを見ると、子どもも暴力をふるうようになるに違いない」というように。しかし、相手の方も、何かもっともらしい反論を考えつくかもしれない。たとえば、「子どもだって、ドラマと現実の違いぐらいはわかっているのだから、ドラマで大人が暴力をふるうのを見ても、現実の世界で自分が暴力をふるうようになったりはしないだろう」というように。

こうした机上の議論は、いくらでも続けていくことができるが、そのうち、どちらかがもっともらしい理屈を考え出すことができなくなって、議論には決着がつくかもしれない。では、勝った方の議論が正しいと言っているのだろうか？

直観的に正しく感じられるということは、必ずしも、本当に正しいということを意味しない。たとえば、「天体はみな地球のまわりをまわっている」という天動説。今よりも大空が身近だった15世紀の人々にとっては、直観的には、この天動説は疑うべくもない真実だったに違いない。にもかかわらず、天動説は誤りだった。

人間の心理についても、「直観が間違っていた」という事例は枚挙にいとまがない。

1 つだけ身近な例を挙げよう。「血液型性格学」。日本だけの現象だが、「A 型の人は几帳面で、B 型の人は独立心旺盛で……」といった、血液型に基づく性格判断がしばしばテレビや雑誌に登場する。直観的には、

非常によく当たっているように感じられるので、多くの人々がこれを信じている。

この「血液型性格学」は、実証的研究によって、誤っていることが繰り返し証明されてきた。にもかかわらず、たいがいの人は実証的研究には関心を払わず、直観に頼って「正しいかどうか」を判断しようとするため、世間では、依然として、この血液型性格学が「真実」として通用している。

問題は、これを応用しようとする人が少なくないことである。たとえば、ある会社では、血液型に基づいて、新入社員を配置する部署を決めているという。「この人の血液型は活動的なO型だから、営業にまわそう」というように。

しかし、血液型性格学が正しくない以上、その応用には危険が伴う。営業にまわされたO型の新入社員は、じつは、人づきあいは苦手だが、事務は正確かつ迅速にこなすという人物かもしれない。その場合、社員の潜在能力を活用しそこなうという点で、血液型に基づいた人事は、会社に損害をもたらすことになる。しかし、それ以上に大きな損害をこうむるのは、ほかならぬ本人だろう。自分の能力を発揮できず、苦手なことを毎日やらされるのでは、人生は苦痛に満ちたものになってしまう。

テレビの娯楽番組なら、直観的にもっともらしくて面白ければ、それで十分かもしれない。しかし、学問は、たんなる娯楽ではない。学問は、応用される可能性をつねにはらんでいる。その点で、学問は重大な責任を負っているのである。

実際に応用された場合、「もっともらしくて面白いが、間違っている」というのでは、社会にとんでもない害毒をまきちらしかねない。人間の心理についての間違った理解に基づいて「いじめ」の解決策を提言したとしたら、はたしてどのような結果になるだろうか？人間の注意能力についての間違った理解に基づいて原子力発電所の計器盤を設計したとしたら、はたしてどのような結果になるだろうか？現実に起こる事態は、私たちの想像をはるかに超えているかもしれない。

(出典：高野陽太郎、岡隆(編集)『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし』、有斐閣アルマ、2004年より抜粋・一部改変)

問1 下線部についての著者の考えを300字以内(句読点を含む)で述べなさい。

問2 本文をふまえた上で、下線部についてのあなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。